

普天間基地

「移設」ではなく即時閉鎖・撤去を

九州・沖縄の日本共産党参院予定候補らが要請



要望書を渡す仁比参院議員(中央)。その右隣りは赤嶺衆院議員。右から山口勝弘(佐賀)、ばば洋光(宮崎)、しのだ清(福岡)の各選挙区予定候補、嘉陽沖縄県議。仁比議員の隣から山下かい(大分)、ふちせ栄子(長崎)、あだち安人(熊本)、山口はるき(鹿児島)の各選挙区予定候補=2010年3月10日、衆議院第二会館

日本共産党の仁比そうへい参院議員、赤嶺政賢衆院議員、九州・沖縄8県の参院選挙区予定候補らは10日、米軍普天間基地(沖縄県宜野湾市)の「移設」問題をめぐって、防衛、外務両省に対し、破たんした移設先探しをただちにやめ、即時閉鎖・撤去の立場に立つよう要請しました。

参加者は「基地は、沖縄にも、九州にも、どこにもいらない」などとそれぞれ訴え、本土と沖縄の党が心ひとつに「代替施設なき返還」を迫りました。

普天間基地「移設」をめぐることは、キャンプ・シュワブ陸上案など沖縄県での「県内たらい回し」を軸に、長崎県の大村基地や佐賀空港、鹿児島県の徳之島など九州各地が候補地とされています。

要請のなかで仁比氏は、九州各県は地元への移設だけに怒っているのではなく、「耐えがたい苦しみ(沖縄、本土)に押しつけてきた日米両政府に怒っている。そこをはき違えてはならない」と指摘。「沖縄県民の思いを受け止めて移設先を探すというのにはあり得ない。沖縄県民の思いは無条件・即時撤去だ」と語気を強めました。

嘉陽宗儀・沖縄県議団長は、沖縄の基地被害について「心を痛め、米国に取り除いてほしいというのが政府のとるべき姿勢だ。なぜ移設先探しか。沖縄(の怒り)は爆発する」と詰め寄りました。

米軍普天間基地の即時閉鎖・撤去を求める要望書

防衛大臣 北澤俊美 様
外務大臣 岡田克也 様

昨年9月の政権発足以降、政府・与党は米軍普天間基地の「移設」先に関する検討をすすめてきました。嘉手納基地への統合をはじめ、下地島、伊江島、徳之島、馬毛島、長崎・大村基地、大分・臼出生台演習場、佐賀空港、福岡・築城基地など、さまざまに「移設」先が取りざたされてきましたが、そのたびに、地元自治体・住民の間では不安が広がり、受け入れに反対の声が上がっています。

こうした下で、鳩山内閣は、キャンプ・シュワブ陸上案を軸に、米側や沖縄県など関係自治体と調整に入る方針を固めたと報じられています。また、ホワイトビークン沖合も新たな候補地に上がっています。「県内移設」での決着をはかることは、「県外、国外移設」という総選挙での鳩山首相の言明に反する明白な公約違反といわなければなりません。

沖縄県民は、97年の名護市民投票以来、「県内たらい回し」に貫いて反対してきました。今年1月の名護市長選挙では、「辺野古に基地はつくらせない」と訴えた稲嶺進氏が当選しました。2月には、沖縄県議会が、普天間基地の早期閉鎖・返還と「県内移設」の断念を求める決議・意見書を全会一致で可決しました。今月8日には、名護市議会が、キャンプ・シュワブ陸上部への「移設」案に反対する決議・意見書を全会一致で可決しました。政府は沖縄県民の総意を正面から受け止め、「県内たらい回し」はやめるべきです。そもそも、普天間基地をはじめ、沖縄の米軍基地は、国際法に違反して、住民の土地を強奪してつくられた

ものであり、ただちに無条件で返還すべきが当然です。

政府は米軍による「抑止力」を強調しますが、もともとと海兵隊は海外遠征を任務とする「殴り込み部隊」であり、「日本防衛」のために駐留しているものではありません。米軍機による墜落と爆音、米兵犯罪など、米軍基地がもたらす被害は、基地の「移設」によって解決できるものではありません。本土への訓練移転が沖縄の負担軽減につながらず、「本土の沖縄化」だけをもたらすものであることは、県道104号線越え実弾砲撃演習の本土移転や「米軍再編」による米軍機の訓練移転などで明らかです。

「移設」先探しでは、問題は解決しません。これ以上、普天間基地の危険さわまりない現状を放置することは許されません。よって、政府に対し、以下の内容を強く求めます。

一、沖縄県民の総意を正面から受け止め、「県内移設」をきっぱり断念すること

二、普天間基地の即時閉鎖・撤去のための対米交渉を開始すること

2010年3月10日

- | | |
|-------------|---------|
| 日本共産党福岡県委員会 | 同佐賀県委員会 |
| 同長崎県委員会 | 同熊本県委員会 |
| 同大分県委員会 | 同宮崎県委員会 |
| 同鹿児島県委員会 | 同沖縄県委員会 |

以上